

2014年版

市長コラム集

市広報誌「広報こおりやま」に毎月掲載



市長コラム (2014年1月号に掲載)

市長コラム 一年の計



清々しい元旦をお迎えのこととお慶び申し上げます。今年も「郡山市歌」「郡山市民の歌」の歌詞の通りの郡山であるように市政執行に当たってまいります。そして改めて市民との約束である法律の基本的条項を記し心に銘記致します。

まずこの文を記すこと自体を保障している憲法第21条(集会、結社及び表現の自由等)。

私たち公務員はすべて憲法第15条(公務員の本質)により「全体の奉仕者」であることを目指します。

郡山をはじめ地方自治体は、法律では地方公共団体とい、その役割、組織とその運営方法は地方自治法に定められています。実務においてはその第2条第14項(最少経費、最大効果)に拠らなければなりません。

市長の責任とその遂行のための権限は第139条以下に定められています。大変重い責任です。

市民の皆様が傍聴される議会の組織や任務権限も、この地方自治法(第89条以下)に定められています。

皆様が日ごろ接触されている市職員の仕事のルールや勤務条件は、地方公務員法に定められています。職員の給与は同法第14条(情勢適応の原則)や第24条(給与、勤務時間その他の勤務条件の根本基準)以下に基づいて定められることになっています。

皆様の納めてくださった税金による予算は地方財政法に拠って組み立てます。来年度の予算もこの法律に拠って組み立て、議会のご審議をいただくことになっています。

公務員は憲法第99条によって法律による行政を執行しなければなりません。

皆様から日ごろ寄せられる苦情やご意見も、いわゆる一件処理に止めず、措置やサービスがどのような法律・条文に拠ってなされているか、お示しするように努めなければなりません。

そして、これらに基づき、市の取り組みが時代の変化に沿わないものであれば、カイゼンしなければなりません。今年も皆様とカイゼンの一年に致したく存じます。よろしくお願いたします。

市長コラム (2014年2月号に掲載)

市長コラム 企業経営 に学ぶ



1月、2月は各種入学試験の月。保護者の皆様も御子弟の合格を願う日々と存じます。「親にできる事は自分も子どもも風邪をひかぬように注意する事」とは我が恩師の父母に対する心構えの教えです。どうぞ御一家が御健勝であられますように、と祈るばかりです。私も仕事始めまでの日々、受験生諸君の心中に思いを致しつつ、仕事・読書をしました。

読書は望遠鏡のように日々の世界以外の遠くの世の中を見させてくれました。また顕微鏡のようにモノ・コトの細部を見せてくれました。そして、日々のモノ・コトを広く深く詳しく理解する上で大きな助けとなりました。

見る角度を変えるところに人々に違って見えるものか、と読書のありがたさを改めて感じ入った次第です。その昔、練達の日々、多忙を極める政治家が「1日15分でよいから仕事と関係ない本を読むべし」と説いておられ

ましたが、誠に至言と感じ入った正月休みでした。ある詩人は「書を捨てよ、町に出よう」と仰せでしたが、これは「本を読むな」ではなく「本について本を書くのではない、世の中を見ているのではない、世の中を写す」と仰せなのではないでしょうか。そういえば、「宮尊徳先生も「天地(世の中)を教科書とせよ」と仰っていました。行政においても然り、本という望遠鏡、顕微鏡で世の中を見たらそれをヨスガとして「世の中」に接し、政策を書くプロセスが詩人と同様必要になります。今年「天地」の中で、企業経営の肝「TQC(M)※1」「経営品質活動」を見ていく事にします。日本企業の強さの秘訣、経営改善の手法です。市内にはそのお手本になる企業がいくつもあります。これらの企業に学びながら行政カイゼンに活かしていきます。もちろんICT※2も学習に利用するICTQMを目指していきます。

※1 Total Quality Control (Management) 総合的品質管理
 ※2 Information and Communication Technology 情報通信技術

市長コラム (2014年3月号に掲載)

市長コラム 街角ギャラリー

先月は読書礼賛を記しました。今月のコラムはスポーツ礼賛、そして、表現の自由について。

スポーツの語源は、遊び戯れることであり、ガマンとか忍耐のイメージがある体育とは違うようです。

私も、さまざまな球技を観戦する機会に恵まれましたが、スポーツのプレーヤーは誠に楽しそうに技を見せて競い合っておられました。

絵画や詩は筆で、音楽は楽器や歌声で表現する芸術ですが、スポーツは全身で、全筋肉を使って表現する総合芸術と言えましょう。

憲法で保障される集会結社表現の自由は、文章表現や集会等の保障と捉えられがちですが、スポーツもまた全身による表現の自由の一つと言えましょう。



スポーツを楽しむ場面を整えることは、とかくハコモノ整備と称して、モノへの投資と見られがちです。しかし、実は表現の自由という基本的人権への投資に当たらないではないでしょうか。

当市は、歌舞音曲に加え、ダンス、書画、武道が年齢や性別を問わずとても盛んです。市民の皆さんの余暇生活は大変豊かで、表現の自由も大いに楽しめるまちでもあります。

多くの方々が余暇活動を楽しめるまちななるよう、当市としても、公共施設の稼働率向上に努めてまいりますが、民間の施設についても、例えば、街角ギャラリー的なスペースとして利用させていただくなど、ご協力をいただけるとうれしいです。よろしくお願います。

9 広報こおりやま/2014.3

市長コラム (2014年4月号に掲載)

市長コラム 卒業

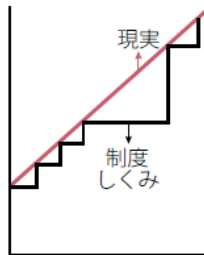
3月は卒業式の月でした。かつて「卒業」という映画がありましたね。

結婚式最中に、新婦を、元の恋人が連れ出してしまう映画でした。

そこで映画はジ・エンド。そう、彼女にとっては新しい門出です。シャレたタイトルでした。

卒業とは新しいステージへの出発で、卒業式は出発式でもあります。

でも出発の儀式は年1回ですが、日々出発ですね。変化は毎日起きています。しかし、現実の変化に対応する制度の変化は遅れがちです。遅れる程、変更の高さは高くなります。絵にすれば右図のようになります。



特に現代はドッグイヤー(※)と言われる程、変化が激しく急激です。日々のニュースを細心の注意をもって読み解き、微調整をキメ細かく行っていけば、ドカッと後で変更しなくて済みます。

夏休みの宿題を毎日少しずつ済ませておけば、最後の日に徹夜する事は避けられるのと同じです。

でも沸点と液状の温度は紙一重、なかなか気づかないものです。

と言いながら原稿はいつも締切日に書いています。m(_ _)m。

「負うた子に教えられ。」お子さんが最も変化に敏感かもしれません。門出したお子さんたちに、問いましょう、明日を。

※犬は人間の約7倍の速さで成長することにとえ、情報技術分野などでの技術革新の変化が速い様子を意味する。



13 広報こおりやま/2014.4

市政に対する皆さんの声をお寄せください

- 市ウェブサイト「ご提案・ご意見」ページ
- 「市民の声送ろう」ファックス

郡山市 提案・意見 検索

FAX 0120-435-106

市長コラム (2014年5月号に掲載)

市長コラム

習慣病



新入所児の様子はいかが？と保育所を訪問。親元を離れて未知の環境に置かれているのに、保育士さんの導きの宜しきを得て、見事に軟着陸していました。「偉い偉い」です。

職場の新人はいかがですか？

さて、我々も新(会計)年度を迎えました。皆さまの職場も新(会計)年度をスタートされて一月。消費税率8%に備えたカイゼン予算を組まれたことと思います。

私も新年度予算編成に当たりました。納税者としての心構えも持って。

つくづく思いましたのは、新施策を始める・追加するのは易しいが、前年度施策を変える・止めることは難しい、ということです。

制度改廃と言っても改も廃も難儀でした。

事の大小を問わず、廃すべき制度・施策については、知識経験数多で愛着もあり、反対理由も出し易く、改めたら・止めたらどうなるかは未知の部類で、つつい「マ、イイカ」となりがち。

しかし、「昨日と同じ今日はない(※)」のですから漫然と昨年と同じ施策を続けてよい訳はありません。

新入所児に負けない勇気と柔軟さをもって臨まなければなりません。

新年度がスタートしましたが、「今からでも遅くはない」「止めたら？カイゼンしたら？」とお気付きの点がございましたらどうぞ、ご意見ください。行政の生活習慣病を直して、人生90年時代に対応できる行政に軟着陸しなければなりませんから。

※「山」(北島三郎さんの歌より)

市長コラム (2014年6月号に掲載)

市長コラム

降車専用



梅雨の季節になりました。治山治水は政治行政の原点と位置付け、浸水被害を無くす、少なくとも床上浸水は「サヨウナラ」を目指し、応急措置、抜本対策のリストアップは済み、実行あるのみの体制で臨んでおります。

特に郡山駅西口の浸水はこれまでもたびたび全国放映されてきましたが、郡山のイメージにかかわる事でもあり、何としても避けたい事態です。天気頼みになってはいけません、ゲリラ豪雨よ来るなかれ、と祈るばかりです。

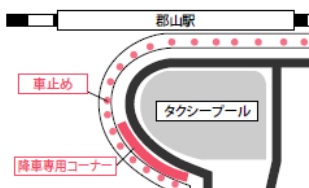
郡山駅西口で「サヨウナラ」と言いたい事と言えば、車のあふれもあります。

右図の通り、車止めのある部分は降車専用で、乗車や迎車コーナーではありません。もし、迎車でいっぱいになったら車の流れはどうなるか？は容易に想像がつかます。

にもかかわらず、残念ながら駐車は止みません。「品川さん、駅前のタクシーに乗るとすぐ渋滞！なんとかならないの？」と、ご来郡の方は異口同音におっしゃいます。

郡山を愛すればこそそのご忠言、と承っております。駅前の降車場はタクシーまたはバスに限られるのが一般的で、自家用車も可能なのは極めてまれです。それだけに旅なれて様々な駅を見ておられる方々には異様に見えるのかもしれませんが。

郡山方式も良い事があります。それを残すためにコース変更を試みます。ご理解とご協力をお願い申し上げます。



市長コラム (2014年7月号に掲載)

市長コラム

挨拶



毎日各種の会合にご案内を頂きます。日程の許す限り参上に努めています。

来賓として招かれ、挨拶申し上げる機会を頂くことがほとんどです。

恒例の礼服用で伺う会以外は、「今、ここ」にふさわしい挨拶になるよう心掛け、その場での雰囲気、その日のニュースなども思いに入れて、その場で考え挨拶申し上げます。

最近では、これからの市政の課題で、市民の皆様の感触を伺っておきたいことに触れております。なぜなら、挨拶の元々の意味は禅宗の用語で、「修行者が互いの修行の成果を質問し合うことによって、自己の修行の到達度を確認する」(ウィキペディアより) ことだからです。

挨拶は一つの問いかけの機会だからです。

着座の会合ですと、やりにくいのですが、立食立席の場合は、できるだけ会場を回り、「ご感想は?」「ご意見は?」と伺うことにしております。こちらからお尋ねする前に、「先ほどの挨拶の…」とコメントを下さる方がおられると、うれしくなります。

「市長日程」をご覧になって「挨拶ばかりやって、仕事できんのかい?」とご心配下さる方がおられ、恐縮しておりますが、挨拶はいわば世論調査、お知恵収集の場で、大変重要な私の「仕事」なんです。

市役所内でも、ご来庁の市民の方に「コンニチワ」「どちらへ?」と、「挨拶」に心掛けております。その節もどうぞ遠慮なくご意見頂ければうれしく思います。どうぞよろしく願い申し上げます。(このコラムも挨拶です)

市長コラム (2014年8月号に掲載)

市長コラム

川のまち



去る7月7日@市民文化センターにて、N響の「ラフマニノフ ピアノ協奏曲第2番ハ短調作品18」と「ショスタコーヴィチ 交響曲第5番ニ短調作品47」(指揮・尾高忠明さん、ピアノ・小山実稚恵さん)を聴く機会に恵まれました。演奏後、役得(お許しください)で舞台裏にて心からの御礼を申し上げます。

「両曲とも、我々福島県民の三年間を曲にすればこの曲、という演奏をありがとうございました」と。「特にショスタコーヴィチの流れは、そのまま、3.11以降の我々の心象の流れそのもの」「ラフマニノフのピアノ、我々の今に大いなる力を与えて下さいました」と。

音楽は音で語るべし、言葉で語るものにあらず、とは承知しつつも、その感謝の意を表さずにはいられず、アンコールの最中に楽屋に向かった次第です。両氏とも「ピアノ良し、ホール良し、そして何より聴衆がスバラシイ」とのご感想を頂きましたこと、併せてご報告致します。

楽団スタッフに伺えば、両曲とも指揮者の尾高忠

明さんが選曲の曲。我々の今に思いを致して下さったの指揮ゆえのあの演奏だったのですね。ありがとうございました。

こうして、「楽興の時」に恵まれることができるのも、ホールの外に不安なきを得てのこと。とりわけ浸水被害も災害もなくこそ、です。

郡山は河川164本、総延長608km、約880本の橋に加えて総延長472kmの安積疏水のある、川のまちです。この河川があふれることなく流れて、初めて郡山の平安を得て、安んじて市民文化センターに足を向けることができるというもの。

皆様のお近くの川は河道も狭くなり、豪雨至れば暴れ川になりかねぬ状況ではないでしょうか。とかく堤の桜には目が行っても、川にはあまり目が向かぬもの。市の管理河川はもとより、国・県にも当市における河川の重みの認識を深め、対策を講じていただくよう、強く訴えて参ります。

皆様が、安んじて市民文化センターの聴衆となれるように。

市長コラム (2014年9月号に掲載)

市長コラム
つぐい
(故)撞井恒夫
さんのこと



忘れもしない去る7月20日、逢瀬川親水公園の夏休みイベントに伺いました。子どもたちは主催者の方々が川に入ってお世話のもとカヌーに興じていました。川岸では水槽の水中動物に、子どもたちも、元子ども(私も含め)たちも見入りました。伝統のイベントで由来を説明するパネルもありました。そこに(故)撞井恒夫さんのお名前が記されておりました。

逢瀬川を子どもたちのカヌー遊びの川にするキッカケを作った方でありました。

詳細を主催者に伺ったところ、記録があるとのこと。早速入手(市に一冊保管)し巻措くあたわず読ませて頂きました。

1990年4月5日から2002年9月13日(故人ご逝去の日)までの13年間の記録、題して「始めなければ始まらない(逢瀬川たった一人のゴミ退治(13年間)の記録)」※です。

たった一人の「始め」が、逢瀬川の河川管理者である福島県の担当者を動かし、担当部署を動かしたことを克明につづった記録です。

私一人だけが読むのはもったいない、と編集責任者に在庫の有無を尋ねたところ、撞井さんの活動を今に継ぐ「逢瀬川ふれあい通り実行委員会」会長の許にあるとのこと。ご好意により数冊頂くことができました。郡山は川の町(先月号記述)、それぞれの川が今の流れにあるのも、たくさんの撞井さんがおられるからに違いありません。河川は沿岸の町の環境センスのバロメーターと認識されての活動を続けている方々がおられるのです。川に背を向けず、真正面に向きあい日々「始め」ること、それが撞井さんの「始め」を無にしない唯一の恩返しと肝に銘じ、第2、第3の撞井さんとともに日々治水行政にいそみます。「合掌」。

※ご希望の方は中央図書館にて閲覧可能です。

市長コラム (2014年10月号に掲載)

市長コラム
まて
木戸前清掃



毎月1日は木戸(門、玄関の事とお考え下さい。)前清掃(※)の日、と最近職員に教えられました。平成8年からの郡山の習慣との事です。毎年何千人という方が社会異動され、世帯主になられますから、毎年PRしないといつの間にか忘れられますよね。

転入届け受け付けの際、成人の日、建築確認の都度等マメにお伝えしないと「ソレ何？」になってしまいますね。

これが定着し、全住宅、全事業所の前で行われますと市道もきれいになり、時にはお隣組同志で声を交わす機会になり、向う三軒両隣りのお付き合いが始まったり、深くなったりにして思わぬご利益が生まれるかもしれません。

そう言えば今年2月の豪雪の際、「除雪で初めてお隣り様と言葉を交わしました。雪のおかげです。」なんてお話も耳にしました。

毎月1日も同じ機会になるかもしれません。通りがかりの人、通学途中の子どもとあいさつを交わす機会になるかもしれません。

「公道も自分の敷地と同じに大事にする町、あいさつのある町、郡山」という定評も得られる事になりましょう。

市道清掃の仕事が減りますと、市の財政にもプラスになり、清掃費分を他の道路カイゼンに回す事も可能になり、税の有効活用にもなります。

客人をお迎えする時は、玄関までの道を掃き清めるのが定番のオモテナシですが、今月18・19日のB-1グランプリin郡山への来客を迎える我々としては、(少なくとも)10月1日を木戸前清掃の日にして、オモテナシの1つにいたしましょう。

※木戸前清掃…ごみのない快適なまちづくりを推進するため、毎月1日の朝に家の玄関先や事業所などの周辺の清掃をお願いしています。(関連 22ページ)

市長コラム (2014年11月号に掲載)

市長コラム グラフ自分史

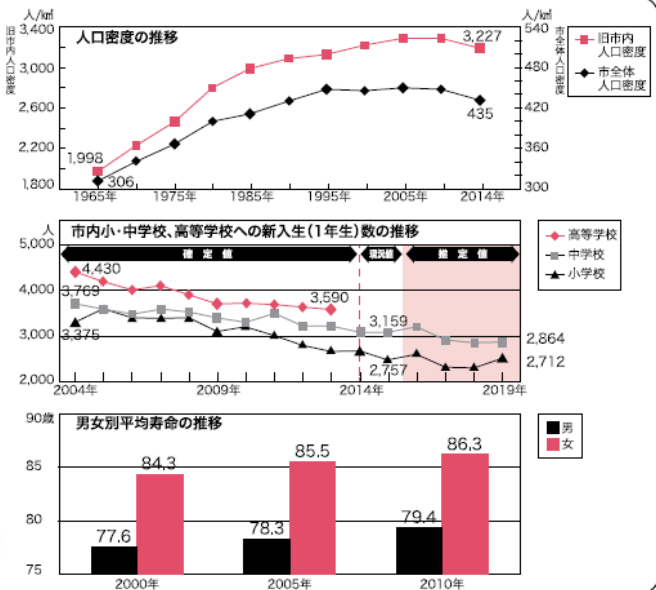


来たる11月4日(火)には市制施行90周年・合併50年記念式典(市主催、関連29ページ)が挙行されます。お一人お一人の90年、50年をどうぞお祝いください。数字でみる90年、50年の一部は「グラフ郡山」でたどることができます。

未だ「グラフ郡山」には載せていませんが次の郡山史を考えるデータを作ってみました。年表もよいですがグラフ化してみると、数字の列からは得られぬヒントが得られます。

皆様もグラフ自分史(体重、血圧など)を作られてはいかがでしょうか。※グラフ郡山は市ウェブサイトでご覧いただけます。

郡山市 グラフ郡山



市長コラム (2014年12月号に掲載)

市長コラム ありがとうございます



今年も、福島復興支援という事で沢山の行事、会議が当市で行われました。

これも、開成山公園、市民文化センター、ビッグパレット、と受け入れ施設が整っていればこそ。今日を見通しての先人の政策に皆さまと共に感謝申し上げます。

また、ご来訪の皆さまが異口同音に言われるのは、「市民の皆さまが温かく迎えて下さる」ということ。これも先人からのよき伝統のたまものとうれしい限りです。

「広報こおりやま」を毎月皆さまのお手元にお届け出来るのも、町内会役員はじめ各分野の方々のご配慮のおかげです。ありがとうございます。

印刷会社の皆さまも市の編集者の注文にキメ細かく応えて下さっているとのこと。

でも人手不足や、天候の変化により、編集、

配達環境も変わります。手間、手数も最小のものでなければなりません。「広報こおりやま」が皆さまのお手元に届くまでの流れは、下記の通りです。原稿作成→印刷→配達と各段階それぞれ工夫して、原稿メ切期間を長く取り、よりタイムリーな情報を皆さまに沢山お届けするにはどうすればよいか、お知恵を下さい。

今日もまた私のコラムに目を通して下さり、誠にありがとうございます。m(_ _)m

(参考) 広報こおりやま12月号発行までの流れ

